

「主体的で深い学びの創造に向けて」 ～市内学校でのタブレット端末・デジタル技術の活用～

教育指導課指導係 ☎0824-73-1184

文部科学省は、学習指導要領で示す「情報活用能力の育成」や「ICTを活用した学習活動の充実」を実現するため、児童生徒に1人1台のタブレット端末の配布と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する「GIGAスクール構想」を公表しました。

本市でも「主体的で深い学びの創造」に向け、令和3年度から児童生徒にタブレット端末を配布し、デジタル技術を活用した取り組みを実施しています。

市内小中学校での取り組みを紹介します

デジタルの特性を生かした授業づくり

市内の小中学校では、デジタル技術の特性を生かした学習を進めています。本年度から一部の教科においてデジタル教科書も活用し、画面の拡大・縮小や音声・動画再生機能を使って授業の内容を工夫しています。

算数・数学の授業では、図形を作図・移動する様子を見せることで、児童生徒がより理解しやすい授業が可能となりました。

また、英語の授業では、児童生徒一人一人が音声を自分の好きな速さで聞いたり、繰り返し再生したりすることが可能となり、それぞれの理解度に応じた授業を行うことができます。

これらを通じて、授業の事前準備や授業中の板書を計画的に整理することができ、授業の改善につながっています。



学習用具としての活用が進むタブレット端末

児童生徒一人一人がタブレット端末を活用し、ノートやワークシートのように授業の要点や調べた内容をまとめています。

また、タブレット端末は考えを伝えるための道具として使用でき、資料を作成して説明する、友達の発表や意見にコメントを送る、同時に課題を確認しながら一緒に考えるなど、学習を進める道具になってきています。



いつでも、どこでも、だれとでもつながる

通信ネットワークを活用することで、学校外の人とも交流を行うことができるようになりました。

他の学校の児童生徒と課題に取り組んだり意見交換を行ったりすることで、多様な考えに触れることができるほか、コミュニケーション能力の向上にもつながっています。また、遠隔地にいる講師とつながり、さまざまな話を聞いたり質問したりすることができ授業の幅が広がっています。



メリットばかりではない、デジタル機器の活用

10月22日に開催した庄原市教育フォーラムでは、東北大学の^{かわしまりょうた}川島隆太教授の講演が行われました。

川島教授は、科学的な根拠を基に「インターネットやテレビゲームなどのデジタル機器の利用が、脳の発達に深刻な影響を及ぼす」と話しました。また、「紙の辞書」で調べたときと「タブレット端末」で調べたときの脳の活動を比較すると、「紙の辞書」の方が活発であるという研究結果が出ていることにも触れました。

市教育委員会・学校は、デジタル機器の有効性や影響について研究しながら、タブレット端末の効果的な活用を推進していきます。